SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2022年度 神奈川大学SDGsアワード

社会の課題解決 学生の視点で

持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて、神奈川大学の学生が研究内容や課題解決策をポスターで表現する「神奈川大学SDGsアワード」が昨年12月11日、横浜市西区の同大みなとみらいキャンパスで開かれた。若い世代の感性を生かし、課題解決への一歩にしていこうというアイデアを10チームが披露。最優秀賞には、環境や性能面で優れたかやぶき住宅の研究・普及に取り組む工学部・建築学科3年の大石純麗さん、春川桃子さん、亀田真瑳人さんのチームが選ばれた。

主催 神奈川大学
後援 横浜市、一般社団法人横浜みなとみらい21
協力 神奈川新聞社
協賛 神奈川県民共済生活協同組合、神奈川大学生活協同組合、グローブシップ株式会社、愛知株式会社、京セラ株式会社、丸紅リアルエステートマネジメント株式会社、株式会社横浜銀行、アズビル株式会社ビルシステムカンパニー、株式会社関電工神奈川支店、株式会社キクシマ、高砂熱学工業株式会社、東京ガス株式会社、東京ケータリング株式会社、株式会社フジタ横浜支店、リコージャパン株式会社、ウェスティンホテル横浜、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社、株式会社横浜グランドインターコンチネンタルホテル、横浜ベイホテル東急

ごあいさつ

横浜市長 **山中 竹春**

SDGsアワードの開催、誠におめでとうございます。今年も、熱意あふれる学生の皆さんの、バラエティーに富んだアイデアが集結しました。

神奈川大学さまは、本アワードの開催や、市内ごみ焼却工場の再エネを活用した電気メニュー「はまっこ電気」の導入など、SDGs達成に向けてさまざまな取り組みを展開されています。

横浜市は今後も、SDGs未来都市として、神奈川大学さまをはじめ、多様な主体の皆さまとのパートナーシップのもと、横浜の未来を切り拓いていきます。

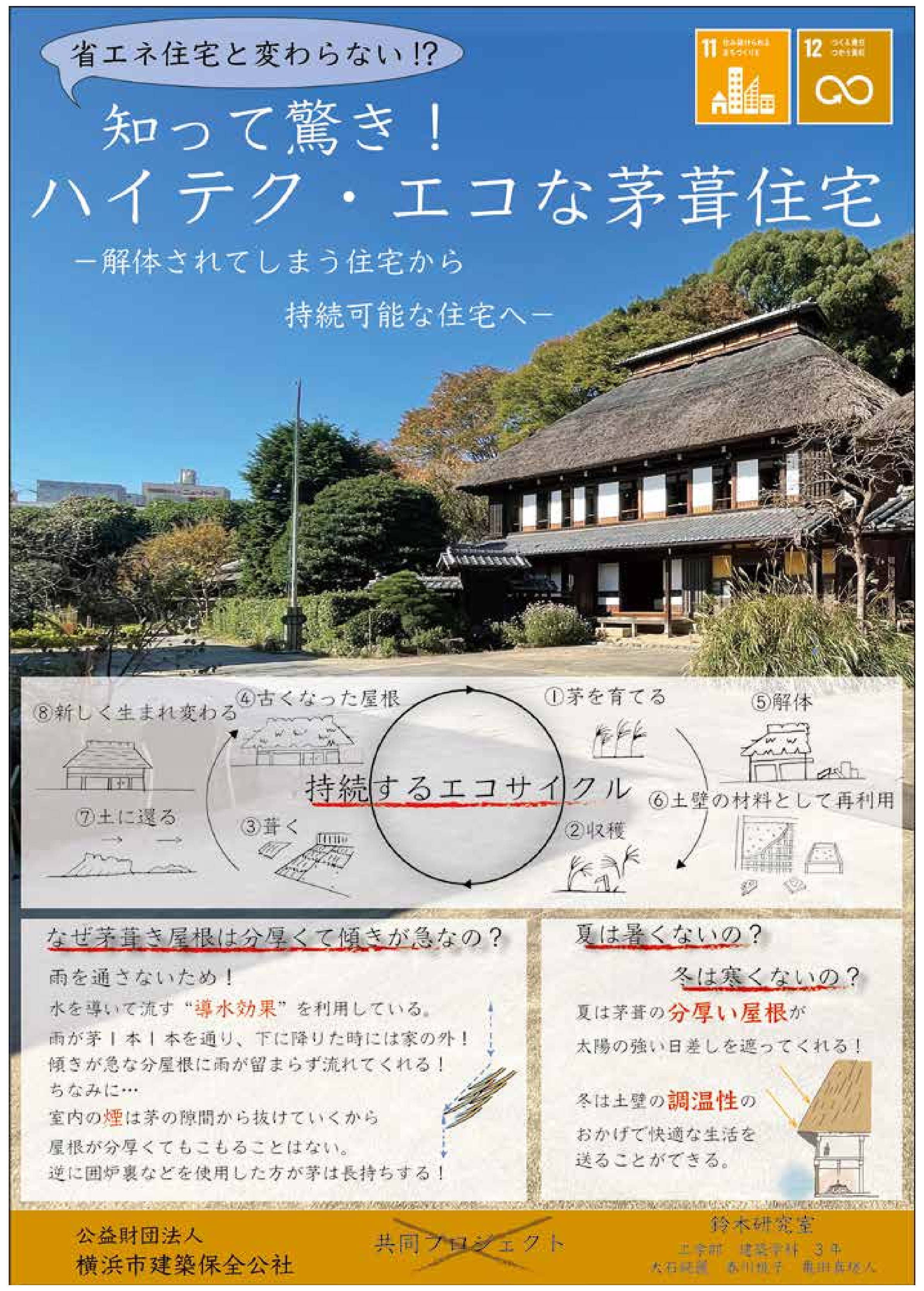
(一社)横浜みなとみらい21 理事長 **坂和 伸賢**

多様なグローバル企業や施設機能、さらには多彩な人材が集積し、さまざまな活動・交流が展開されている、みなとみらい21。このエリア全てを「キャンパス」、「学びの場」と捉え、知の拠点として、多岐にわたる取り組みを進める神奈川大学。この度の「SDGsアワード」の開催は、SDGsの理念の一層の普及に加え、次世代を担う若者の実践的な人材育成や複雑化する社会課題に向けた対応姿勢を広く国内外に発信してゆくものと確信します。

最優秀賞

チーム「鈴木さんとゆかいな仲間たち」

制作者／大石純麗、春川桃子、亀田真瑳人



作品説明
現在多くの建物は新たに造られては古い建物は壊す、壊される、壊れてゆく負のサイクルが続いている。産業廃棄物の増加、地球温暖化などさまざまな環境問題が取り上げられ、近年その省エネ対応の最新機能の住宅が造られた。実は同等の性能をもっているかやぶき住宅。このまま消滅させてしまってもよいのか？ 開催予定のイベントを始まりに、この住宅の素晴らしさを伝えることでこれからの建築工法の主の一つとして復活させることを推奨したい。

審査講評
現代における建物を取り巻く課題は多岐にわたっており、その解決が急務となっています。本作品は、その手段として失われつつある伝統的な「かやぶき住宅」のもつ持続可能性に着目し、共同プロジェクトとして実際に行動へとつなげている点が非常に優れていました。またポスターとしての見やすさ、写真の使い方なども素晴らしく、研究内容が一目で伝わる点も評価のポイントとなりました。

総評

審査委員長 **小熊 誠**（神奈川大学長）

創立者の米田吉盛は、京浜工業地帯で働く勤労青年の学びの場として本学を創設し、給費生制度など幅広い学修機会の提供に注力してきました。これらの思いや取り組みは、SDGsの理念に合致しており、本学は全国の大学に先駆けてSDGsに取り組んできました。本アワードは、学生の皆さんに一層SDGsについて考えを深め、発表の機会を持ってもらうため、昨年度より始めました。

いま、私たちは対立と分断が進む時代に生き、改めて平和と共生について考える必要に迫られています。多様な価値観を理解し、誰もが人らしく生きられる社会の実現が急務であり、地球環境問題など国境を越える人類の課題も深刻です。学生の皆さんには、企業、社会や地域とのつながりを大切にし、持続可能な社会の実現に向けて努力を続けてほしいと願っています。

審査員
神奈川大学 学長特別顧問 西田 恒夫／神奈川大学 副学長 大橋 哲／神奈川県民共済生活協同組合 理事 並木 裕之／神奈川大学生活協同組合 専務理事 滝澤 栄司／グローブシップ株式会社 常務取締役 勝 仁志／愛知株式会社 専務取締役 島本 健司／京セラ株式会社 オープンイノベーション推進部責任者 大崎 哲広／丸紅リアルエステートマネジメント株式会社 施設管理本部執行役員副本部長 木代 孝人／株式会社横浜銀行 地域戦略統括部長 細田 順太郎／横浜市 温暖化対策統括本部長 石川 武史／一般社団法人横浜みなとみらい21 理事長 坂和 伸賢

PR

優秀賞

チーム「OISHI!」

制作者／遠藤乃衣、畠山舞菜、髙島直将

作品説明
神奈川大学の学生たちからボランティアを募り、廃棄予定食材を利用して貧困に苦しむ子どもたちを支援する取り組みを行う。まず学生食堂や周辺地域の市場・農家等から「①廃棄予定食材を収集」する。この食材を利用し、地域の子供たち向けに「②こども食堂を運営」するとともに、食材をフリーズドライ化して「③新興国の貧困家庭に向けて輸送」する。このスキームを通して、地域のフードロス削減、さらに貧困や飢餓の撲滅に貢献する。

審査講評
開発問題で最も基本的な課題であると同時に、身近な問題である貧困および飢餓を取り上げており、大きな関心と共感を得やすいものでした。大学、地方自治体及び企業の参加を得ることにより、事業が一過性にとどまらず持続可能なものになりうることも重要です。ポスターとしても明るくフレンドリーで、好感が持てました。

神奈川県民共済生活協同組合賞

チーム「メタバースグループ」

制作者／上井萌、飯富暁登、大西冬也、山科龍之介

作品説明
超高齢社会である日本が抱える問題の一つとして、周りとの関係がなく孤立してしまう独居高齢者の存在があります。この問題解決に向け、メタバースがもたらす「人同士のつながり」の活用が有力と考えます。そこで、「メタバースとリアルをつなぐ」ということに焦点を当て、高齢者同士で容易に交流ができる共感コミュニティーを形成します。このコミュニティーを継続していくことが、「住み続けられるまちづくりを」につながります。

審査講評
新しい情報通信技術を活用し、仮想空間で楽しみながら、独居老人が新たなつながりをつくる。そして、コミュニティーが形成されることで、孤立を防ぎ、生きがいにつながる発想に賛同しました。将来的には、地域の幅広い年代層に活用できることを期待しております。

神奈川大学生活協同組合賞

チーム「神大ポニープロジェクト」

制作者／浅野優翔、児玉周都、石井和光、田中英資、髙久李美

作品説明
六角橋商店街はコロナでにぎわいを失った。3年間イベントを中止。活気が失われていた。そこに、神大生が奮起し、商店街を元気にしたい一心で「ポニープロジェクト」を立ち上げた。商店街に動物を連れてくる交渉は難航し、時間を要した。しかし、当日は1500人を集客。子ども、ファミリー層、カップル、沢山のお客さまが集まった。店主さんは大喜び。久しぶりのにぎわいで笑顔を取り戻した。これからも大学と商店街との絆を大事にしたい。

審査講評
当組合は日々の運営を通して「人とのつながり」を大事にしています。「神大生」が身近に感じる点、参画しやすい点を評価しました。ただし、衛生面や動物愛護の観点から、動物を媒体にした企画については一定の配慮が必要だと考えます。今後のさらなる発展に期待します。

グローブシップ賞

チーム「カワハル企画部」

制作者／竹端晴菜、守下真翔

作品説明
私たちはSDGs10「人や国の不平等をなくそう」、11「住み続けられるまちづくりを」、17「パートナーシップで目標を達成しよう」を取り入れ、「つくりだそう私たちの住むまちを」というタイトルのポスターを作りました。このポスターでは、誰も取り残さないと言われているのに、若者が地域に取り残されているのではないかという疑問と、疑問に対して私たちの活動で得た考えを表現しました。

審査講評
当社のSDGsとして「住み続けられるまちづくりを」を重視しており、まちの主役は人であると理解しています。当作品で「若者の社会的孤立」という鋭い課題を提起していること、「地域交流の起点となることでまちを活性化しよう」とする姿勢を評価しました。

当日の配信映像と受賞作品はこちらからご覧いただけます。「2022年度 神奈川大学SDGsアワード」結果発表・授賞式開催（神奈川大学HP）

最優秀賞を受賞した「鈴木さんとゆかいな仲間たち」のメンバーと小熊学長

優秀賞

チーム「KUSEP」

制作者／宮嶋綾、居川昇陽、長谷川璃奈、廣野颯人、ジョン ヒョンジュ

作品説明
私たちKUSEPは宇宙エレベーターの実験機を研究、開発をしているサークルです。宇宙エレベーターは実現すれば、新たな産業の基盤となるだけでなく、クリーンなエネルギーで、宇宙へゴミを出さずに運用が可能です。また、私たち自身も部品の再利用などを行い持続可能な社会への取り組みを行っています。KUSEPはさまざまな可能性を持つ宇宙エレベーター実現のために、日々尽力しております。

審査講評
2022年2月に世界最速記録、時速100・6kmを達成し、実現に向けて成果を上げているほか、部品の再利用などにも取り組んでいる点を高く評価しました。ポスターとしても宇宙エレベーターの特徴がわかりやすく、今後の希望を感じさせるものとなっていました。今後の改良に期待しています。

愛知賞

チーム「神奈川大学宇宙ロケット部」

制作者／岡本真穂、和田聡一郎、岩下瑞夏

作品説明
神奈川大学宇宙ロケット部では、高野研究室と共同でハイブリッドロケットの研究・開発を行なっています。2021年に高度日本記録を更新しました。最終的な目標は、超小型衛生を軌道に投入できる専用のロケットを開発することです。これによって例えば、特定の地域の農作物の生育状況の確認などのニーズに対応できます。2022年の打ち上げではガンプラの使用済みランナーを利用したハイブリッドロケットの燃料開発を進めました。

審査講評
ポピュラーな「ガンプラ」から発生するランナーを先端技術の開発材料に再利用する発想が素晴らしいです。再生樹脂100％で商品開発している当社の開発理念と共通点を感じました。ロケット打上試験で日本記録を更新する成果も出しており、明瞭なポスターデザインも評価に値します。

京セラ賞

チーム「ユースフォーラム 町内会グループ」

制作者／大久保遊、絞張美波、大瀧伸星、池田大樹、山﨑裕菜

作品説明
最も身近な地域コミュニティー「町内会」を未来の世代へも。私たちは横浜キャンパスのお膝元・斎藤分町南部町内会と協働した。これは地域の方を〝本〟に見立て、〝読者〟である学生がその人や地域の物語に耳を傾けるという企画。当日は30名以上が車座になり、人生の図書館で心通うつながりの新たな頁を開きました。今はまだプロローグ。多様な主体が関わる地域づくりの物語は続いていきます。

審査講評
本ポスターは、孤立化が進むコロナ禍における対話の機会を見いだし、対話を本とした新たな価値転換を試みたことが評価に値します。今後さまざまなライブラリーが増えていくことを期待させずにはいられない。また表紙で多くを語らず、あえて表紙を開くわくわく感を想起させます。

丸紅リアルエステートマネジメント賞

チーム「荻野ゼミ」

制作者／相原剛、小豆畑太一、吉岡佑馬、リョウ ヨウ、マン シンイ

作品説明
ジェンダー平等を目指すための第一歩として、身近なジェンダー問題について知ってもらう活動をしています。かながわユースフォーラムや神大フェスタで「結婚指輪はだれが買う?」「男性化粧はどう思う?」というテーマを取り扱い、多くの学生にジェンダーについて考えるきっかけをつくれてきたと思います。その活動報告も兼ねたポスターとなっています。

審査講評
タイトルは、日本語訳で「無意識の偏見」。荻野教授が伝える「多くの視点でものを見る力を身に着ける」、これが『ジェンダー』を知ること・理解すること、偏見を見直すための第一歩と考えます。『ジェンダー』という身近な問題をテーマとして採りあげ活動していることに共感し高評価と致しました。

横浜銀行賞

チーム「かながわユースフォーラム」

制作者／髙久李美、大後双葉、阿部直樹、高橋侑佑

作品説明
コロナで人との交流が減り、私の大学は元気がなかった。そこで神大生の有志が集まり、地域をフィールドとした若者と地域との交流型事業「かながわユースフォーラム」を企画運営。地域課題を学び、考案、実行の全てを学生が担った。イベント当日は200名の学生が集結。地域の大人との本気の意見交換で、新たなつながりを創出。一方向型から双方向対話型へ学び方が変わる。ローカルな地域は、まるごと、私たちのキャンパスになる。地域活性化はおもしろい。これからもローカルに学びたい。

審査講評
「まちが私たちのキャンパスに!」というメッセージが伝わりやすく、まちづくりに学生の皆さんが積極的に関わる姿が目に浮かび高く評価しました。横浜銀行は地方創生・SDGsに取り組んでおり、「私たちの力で地域を盛り上げたい」という思いに共感し、横浜銀行賞に選定しました。